

新刊 3月下旬搬入予定

理工書／生物学・視覚心理学・光学 ご担当者さま

# 見える世界は こんなに違う!



約2万個の個眼がびっしりと並んでいるトンボの目



馬に白黒の縞模様のコートを着せると、アブがとまる回数が減少する

脳をもたないクラゲ、  
真っ暗な深海を漂うダイオウイカ、  
首を頻繁に動かすフクロウ、  
ごみ袋を透視するカラス、  
岩に固着すると視力を失うフジツボ、  
彼らはどのようなものを「見て」いる？

ダーウィンを困らせた「目の進化」から、  
動物たちの「見る・見られる」の熾烈な攻防戦、  
蛍光色や輪郭線が目立って見える「視覚の不思議」まで、  
“目から鱗”のトピックが凝縮。

心理学、光学、工学の横断領域にあたる「視覚心理学」を研究する著者が、  
光や色の特性、目の仕組み、さらには世界中の動物たちの目の構造や特性についても調べ、  
「これは面白い!」と思った話題を掻き集めた、知的好奇心をくすぐる一冊。



縞模様の板を使う  
赤ちゃんの視力検査

約200個のカメラ眼をもつホタテ

chapter1  
目の進化

さまざまな形態へと発達した  
目の進化をたどる

chapter2  
見る・見られる

生き残るために身につけた  
視覚を生かした生存戦略とは

chapter3  
見えない世界

人が見える「可視光」以外の  
光を見る動物たちの世界を覗く

chapter4  
どこまで見える?

眩しさや色数など  
「見える範囲」を比べてみよう!

chapter5  
感じる光

「ものを見る」以外の  
光が身体に与える影響を考える

バレーボールの中心を見つめると、  
ボールの周りの景色は  
ぼんやりとしか見えない

## 「奇想天外な目と光のはなし」

著:入倉隆 定価:1800円+税 仕様:四六判、並製、216p、2C ISBN:978-4-8441-3784-9 C0045

拡材のご用意  
ございます!  
ご希望のものを○で囲んでください。

A4パネル  
A5パネル  
POP

3/11(金)  
〆切

新刊委託

帳合・貴店名

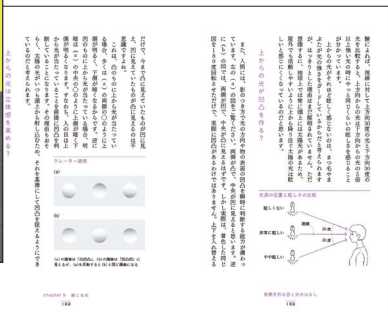


- ・どうして目は「頭部」に「2つ」ついているの?
- ・動きの速い動物ほど視力が良い?
- ・真っ暗な深海に棲む動物にも目があるのはなぜ?
- ・点滅する光はより目立つ?
- ・昼間に強い光を浴びないと夜に冷えやすい?
- ・人間よりも色覚の多い動物は、より鮮やかな世界を見ている?
- ・ブルーライトは目を良くする? バイオレットライトは目を悪くする? etc.

### 著者プロフィール

入倉 隆(いりくら たかし)

芝浦工業大学教授。1956年(昭和31年)香川県生まれ。1979年早稲田大学理工学部電気工学科卒業。運輸省交通安全公害研究所などを経て、2004年より現職。博士(工学)。元照明学会副会長。専門は、視覚心理、照明環境。主な著書に、『脳にきく色 身体にきく色』(日本経済新聞出版社)、『視覚と照明』(裳華房)、『照明ハンドブック 第3版』(オーム社)などがある。



雷鳥社  
RAICHOSHA

FAX 03-5303-9567

※おかけ間違いにご注意ください。

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-4-12 TEL 03-5303-9766

MAIL info@raichosha.co.jp

冊